室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

モンゴル語の目的語節の統語論

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2008-01-17 キーワード (Ja): キーワード (En): object clause, binding, anaphoric, pronominal, reflexive-possessive, possesive proclitic 作成者: 橋本, 邦彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/353

室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

モンゴル語の目的語節の統語論

その他（別言語等）のタイトル	The Syntax of Object Clauses in Mongolian
著者	橋本　邦彦
雑誌名	室蘭工業大学紀要
巻	57
ページ	25-36
発行年	2007
URL	http://hdl.handle.net/10258/353

室工大紀要第57号（2007）25～36

学　術　論　文

モンゴル語の目的語節の統語論

橋本　邦彦*1

The Syntax of Object Clauses in Mongolian

Kunihiko HASHIMOTO

（原稿受付日　平成 19 年 5 月 23 日　　論文受理日　平成 19 年 9 月 10 日）

Abstract

The purpose of this article is to elucidate the relationships between sentence patterns and subject forms of Mongolian object clauses in terms of the distributions of the reflexive-possessive suffixes and the personal possessive proclitics. The sentence patterns have the following two types: a normal type whose word order is a main clause subject, an object clause and a main clause predicate; a topic type which consists of a sentence-first object clause and a main clause. The subject forms include four variants, that is, the zero (covert) form, the accusative, the genitive and the nominative, depending on the coreferentiality or non-coreferentiality between a main clause subject and an object clause one. The study demonstrates that the zero subject, in fact, is divided into an anaphoric type and a pronominal type according to the binding principle of the personal possessive proclitics as well as the reflexive-possessive suffixes. It also suggests that the choice of the accusative, the genitive and the nominative has something to do with the degree of integration of a main clause and an object clause.

Keywords: object clause, binding, anaphoric, pronominal, reflexive-possessive, possessive proclitic

1　はじめに

次の２つの文を比較してみよう。

(1) Bi　[mongol-iyn　uran zoxjool-ijg] med-ne.(1)
私:N　モンゴル-G 文学-ACC　知る-PRS
(私はモンゴル文学を知っています。)

(2) Bi　[tsas　or-son-iyg]　med-ne.
私:N　雪:N 降る-PF-ACC 知る-PRS
(私は雪が降ったことを知っています。)

(1)は他動詞構文である。モンゴル語の基本語順は<主語 - 直接目的語 - 動詞＞であるから、mongol-iyn uran zoxjool-iyg は直接目的語ということになる。(2)を(1)と較べていただきたい。(1)の直接目的語の位置にあるのは tsas or-son-iyg という対格形動名詞句である。(1)との唯一の違いは、(2)

*1 共通講座

の直接目的語全体が＜主語 - 動詞＞から成る文を包含しているということである。その証左として対格形接尾辞を除いた(3)が、申し分のない単文を形成する事実を挙げることができる。

(3) Tsas　or-san.
　雪:N　降る-PF
　(雪が降りました。)

さらに、次の２つの文も比較してみよう。

(4) Mongol　ard-iyn　xuvjsgal 1921 on-d
　モンゴル　人民-G　革命:N　年-D/L
　yal-san.　[Ene　xuvjsgal-iyg]
　勝利する-PF　この　革命-ACC
　Süxbaatar　udird-a-v.
　スフバータル:N　導く-EP-PST
　(モンゴル人民革命は 1921 年に勝利しました。この革命をスフバータルが先導しました。)

(5) [Ter　öröön-d　radio　duugar-č
　その　部屋-D/L　ラジオ:N　鳴る-ICC
　baj-g-aa-g]　oxid　sons-loo.
　COP-EP-IMPF-ACC　娘たち:N　聞く-RPST
　(その部屋でラジオが鳴っているのを、娘たちが聞きました。)

(4)の第 2 文の文頭に立つ直接目的語は、第 1 文の主語を受けたものである。その意味で旧情報を担うが、これを話題化した上で、「スフバータルが先導した」という新情報を付与する。このような情報構造を作り出すために直接目的語を文頭に移動する操作を話題化(topicalization)という。(5)は対格形動名詞句全体が話題化の適用を受けている。

(1)と(2)、(4)と(5)の統語上の並行性から、(2)と(5)のように、その内部に文を抱え込んだ動名詞句を目的語節(object clause)と呼ぶ。[2]

目的語節は対格形接尾辞によって統括されるほかに、動詞語幹に必ずアスペクトを表示する動名詞形接尾辞が付加する。この接尾辞には、(2)の完了形-san、(5)の未完了形-aa に加えて非過去形-x、習慣形-dag がある。[3]

以上から目的語節を次のように定義することができる。

(6) 目的語節：他動詞構文の直接目的語の位置を占め、アスペクト動名詞接尾辞に後続する対格形接尾辞によって統括された節的構成素を目的語節という。

本稿の目的は 2 つある。第 2 節では、目的語節に現れる顕在化しないゼロ主語が、照応型と代名詞型とに分かれる事実を、主節と目的語節の文型と再帰所有接尾辞及び人称所有後接語の分布から明らかにする。第 3 節では、非同一指示的な場合に現れる属格形、対格形、主格形の主語の統語的特徴を探っていく。第 4 節は 2 つの目的を考察した後の結論である。

２　2 つのタイプのゼロ形主語

本節では、目的語節に現れる非顕在的なゼロ形主語には、主節主語に束縛される照応タイプと束縛されない代名詞タイプがあることを、再帰所有接尾辞と人称所有後接語の分布から証明する。

２．１　照応タイプのゼロ形主語: e_{ANA}

モンゴル語の再帰所有接尾辞(reflexive-possessive, 以降 REF と略記)は、橋本(2000a: 4)によると照応語(anaphor)であり、次のような統語上の制約下にある。

(7) REF にかかる統語上の制約：
　REF は同一文中・同一節中の最も近い主語により束縛されなければならない。[4]

(7)は、(8) – (11)の文中の REF と指示対象との同一指示関係から支持できる。

(8) [Bagš]$_\alpha$　odoo　ger-t-*ee*$_\alpha$　xarj-na.
　先生:N　今　家-D/L-REF　帰る-PRS
　(先生は今自分の家に帰ります。)

(9)*Exner-*ee*$_\alpha$　öčigdör [Dorž-toj]$_\alpha$　xödöön-öös
　妻-REF　昨日　ドルジ-CMT　田舎-ABL
　ir-lee.[5]
　来る-RPST
　(彼=ドルジの妻はドルジと一緒に田舎からやって来ました。)

(10) [Dulmaa]$_\alpha$　[Dorž-oor]$_\beta$　dasgal-*aa*$_\alpha$/*$_\beta$
　ドルマー:N　ドルジ-INS　宿題-REF
　xij-lge-žee.
　する-CST-PPST

(ドルマーはドルジに自分=ドルマーの宿題をやらせました。)

(11) [Aav]$_{\alpha}$ tsaj-g-*aa*$_{\alpha}$ uu-ž [eež]$_{\beta}$
父:N 茶-EP-REF 飲む-ICC 母:N
xool-*oo*$_{\beta}$ xij-lee.
食事-REF 作る-RPST
(父は自分=父のお茶を飲み、母は自分=母の食事を作りました。)

(8)では主語 bagš が REF を束縛する。(9)では主語自体に共同格 NP と同一指示的な REF が付加している。この共同格 NP は主語より統語的に低い構成素統御できない位置にあり、主語を束縛できないので、非文法的と判断される。(10)は使役構文で、REF の先行詞として使役者の主語と被使役者の具格形 NP が候補として考えられるが、統語上主語 Dulmaa のみが束縛できる。(11)は事態の同時性を表す等位文である。各節に主語と REF が存在するが、それぞれの節内で束縛関係が成立している。

モンゴル語では主節主語と従属節主語が同じ指示対象を持つ場合、後者は顕在化しない。

(12) [Bi]$_{\alpha}$ $_{OC}$[***e***$_{\alpha}$ surguulj-d or-o-x-iyg]
私:N 学校-D/L 入る-EP-NPS-ACC
tanaas xüs-č baj-na.
あなた-ABL 願う-ICC COP-PRS
(私は、学校に入れてもらうことを、あなたに願っています。)[(6)]

(12)では目的語節の主語がゼロ形 ***e*** となっている。このゼロ形は主節主語と同一指示関係にある。問題は、ゼロ形主語の統語上のステイタスは何かということである。

実は、ゼロ形主語が照応語であることを示す証拠が少なくとも 3 つある。第 1 の証拠は、目的語節の動名詞形に REF が付加する場合である。

(13) [Bi]$_{\alpha}$ $_{OC}$[***e***$_{\alpha}$ anx surguulj-d or-sn-*oo*$_{\alpha}$]
私:N 初めて 学校-D/L 入る-PF-REF
büü tüür san-a-dag.[(7)]
ぼんやりと 覚えている-EP-HBT
(私は、初めて学校に入った時のことを、ぼんやりと覚えています。) <K&Ts: 226>

(14) [Bi]$_{\alpha}$ $_{OC}$[***e***$_{\alpha}$ ger-ees-*ee*$_{\alpha}$ nom-*oo*$_{\alpha}$
私:N 家-ABL-REF 本-REF
arčr-a-x-*aa*$_{\alpha}$] mart-čix-a-ž[(8)]
持って来る-EP-NPS-REF 忘れる-CMP-EP-PPST
(私は、自分の家から本を持ってくるのを忘れてしまいました。) <塩谷 2001: 92>

(13)、(14)の目的語節の動名詞形動詞に付加している REF は、主節主語に束縛されていると同時に、目的語節の行為者を表示している。目的語節全体が主節主語の束縛領域下にあることは、(14)の目的語節内の奪格形 NP、対格形 NP の REF がすべて主節主語 bi によって束縛されている事実から確認できる。ただし、ゼロ形主語の位置に顕在的な主語がある場合には、(7)により、目的語節内の REF は主節主語によってではなく、当該の主語により束縛される。また、動名詞形動詞に REF が付加することはない。

(15) Yör nj [ene udaa-g-ijn toglolt]$_{\alpha}$
一般に この 次の-EP-G コンサート:N
$_{OC}$[[Serčmaa-g]$_{\beta}$ Mongol-d-*oo**$_{\alpha/\beta}$
セルチマー-ACC モンゴル-D/L-REF
xülee-n zövšöör-ö-gd-sön
受け入れる-ASS 同意する-EP-PSV-PF
duučin bol-sn-iyg/*bol-sn-*oo*] xaruul-laa.
歌手:∅ なる-PF-ACC/-REF 示す RPST
(一般に、今度のコンサートは、セルチマーがモンゴルで受け入れられる歌手になったことを示しました。) <Oyuutan 2003.3.10.>

(15)では与位格形 NP の REF は主節主語ではなく、目的語節の対格形主語により束縛されている。この環境で目的語節の動名詞に主語を示す REF を付加すると、非文法的な文になる。

第 2 の証拠は、目的語節の顕在的な主語自体に REF が接続する場合である。

(16) [Bat]$_{\alpha}$ $_{OC}$[xüü-g-ijn-*xee*$_{\alpha}$ tešüür-eer
バト:N 息子-EP-G-REF スケート-INS
gulg-a-ž baj-g-aa-g]
滑る-EP-ICC COP-EP-IMPF-ACC
xar-laa.
見る-RPST
(バトは、自分の息子がスケートで滑っているのを見ました。)

(16)は主節主語と目的語節主語が非同一指示関係にあり、後者が属格形で実現している。この属格形主語に付加する REF は主節主語 Bat により束縛されているが、同一指示的関係の場合にはまさにこの位置をゼロ形 ***e*** が占めることになる。言い換えるなら、ゼロ形主語は主節主語の束縛位置に現れるのである。

目的語節の属格形主語以外の語に REF が付く場合、(17)に見るように、同一指示関係を結ぶのは属格形主語とであって、主節主語とではない。

(17) [Bagš]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[taniy]$_{\beta}$ šalgalt-*aa**$_{\alpha/\beta}$ sajn
先生:N あなた:G 試験-REF よく
ög-sn-ijg] nadad yarj-san.
受験する-PF-ACC 私:D/L 話す-PF
(先生は、あなたが試験のよくできたことを、私に話しました。)

このような統語的環境では、属格形主語にも REF が付いて同一指示対象の分裂を引き起こすような文は排除される。

(18)*[Bagš]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[xüü-g-ijn-*xee*$_{\alpha}$]$_{\beta}$ šalgalt-*aa*$_{\beta}$ sajn
先生:N 息子-EP-G-RFL 試験-REF よく
ög-sn-ijg] nadad yarj-san.
与える-PF-ACC 私:D/L 話す-PF

第 3 の証拠は、目的語節が主節主語に構成素統御されない位置、すなわちゼロ形主語 ***e*** が主節主語により束縛されない位置では、このゼロ形主語の出現しない事実である。

(19) [Ter]$_{\alpha}$ $_{OC}$[***e***$_{\alpha}$ mongol xel-nij dürm-ijn
彼女:N モンゴル 言語-G 規則-G
daguu yarj-x-iyg] xičee-deg.
に従って 話す-NPS-ACC 励む-HBT
(彼女は、モンゴル語の規則に従って話すよう励んでいます。) <K&Ts: 288>

(19)は 2 つの主語が同一指示的な場合で、主節主語はゼロ形主語を束縛できる位置にある。一方、(20)のように目的語節をトピック化により文頭に移動させると、この位置では主節主語はゼロ形主語を構成素統御できないため、適切な文とは認められなくなる。

(20)*$_{OC}$[***e***$_{\alpha}$ Mongol xel-nij dürm-ijn daguu
モンゴル言語-G 規則-G 沿って
yarj-x-iyg] [ter]$_{\alpha}$ xičee-deg.[9]
話す-NPS-ACC 彼:N 努力する-HBT

一見、(20)と同じ構造を持っているのに異なる振る舞いをしているように見える例がある。

(21) [Ta]$_{\alpha}$ yaaž yav-aad žüžigčin
あなた:N どうして 行く-PCC ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝ:∅
bol-čix-o-v oo. [***e***]$_{\alpha}$ $_{OC}$[***e***$_{\alpha}$
なる-CMP-EP-PST VOC
Baga-aas-*aa*$_{\alpha}$ žüžigčin
小さい-ABL-REF ミュージシャン:∅
bol-o-x-iyg] tegtel xüs-deg
なる-EP-NPS-ACC その頃 願う-HBT
baj-v uu?
COP-PST Q
(あなたはどうやってミュージシャンになってしまったのでしょう。小さい頃からミュージシャンになることを、その頃願っていたのですか。) <ÖS: 2001.2.23.>

(21)の第 2 文は目的語節が文頭にあるように見える。けれども、第 1 文とのトピックのつながりを観察すると、2 人称代名詞主格形 ta を第 2 文のゼロ形主節主語が受け、その後に同一指示的なゼロ形主語を含む目的語節が続くという通常の文パターンを構成していることがわかる。

主節主語と同一指示的なゼロ形主語が文頭では生じないことは、(16)のような属格形主語に付加する REF がトピックの位置に出現できない事実と並行的である。なぜなら、この位置では主節主語が REF を束縛できないからである。

(22)*$_{OC}$[Xüü-g-ijn-*xee*$_{\alpha}$ tešüür-eer
息子-EP-G-REF スケート-INS
gulg-a-ž baj-g-aa-g]
滑る-EP-ICC COP-EP-IMPF-ACC
[Bat]$_{\alpha}$ xar-laa.
バト:N 見る-RPST

以上から、目的語節のゼロ形主語 ***e*** は、次のような統語上のステイタスを持つ。

(23) a. 主節主語と目的語節主語が同一指示関係にある場合、目的語節主語は必ずゼロ形 ***e*** で実現する。
b. このゼロ形主語は、主節主語によって束縛される照応語(anaphor)である: $\boldsymbol{e}_{\mathrm{ANA}}$。

2.2 代名詞タイプのゼロ形主語：$\boldsymbol{e}_{\mathrm{PRO}}$

モンゴル語の人称所有後接語(personal possessive proclitic、以降 PROC)は、名詞に後接し、その名詞を修飾する代名詞である(橋本 2006a, 2006b)。

(24) [Aav *minj*] modon sandal xij-sen.
父親:N 1PROC 木の いす:∅ 作る-PF
(私の父は木製のいすを作りました。)

(25) [Bi]$_{\alpha}$ [Dorž-ijg]$_{\beta}$ [ger-t *nj*$_{\beta}$]
私:N ドルジ-ACC 家-D/L 3PROC
xürg-e-v.
送り届ける-EP-PST
(私はドルジを彼=ドルジの家に送り届けました。) <K&Ts: 123>

(26) Minij morj [morj-toj *nj*] xamt
私:G 馬:N 馬-CMT 3PROC 一緒に
yav-žee.
行く-PPST
(私の馬は彼の馬と一緒に出かけました。)

(24)は単文の主語を修飾する位置に後接語がある。(25)は与位格形 NP に後接しているが、先行詞は主語ではなく対格形 NP である。(26)は共同格形 NP に添えられているが、指示対象は当該の文の外にある。

PROC の代名詞としての役割は、(24')、(25')、(26')における REF との違いから鮮明に見てとることができる。

(24')*Aav-*aa* modon sandal xij-sen.
父親-REF 木の いす:∅ 作る-PF

(25') [Bi]$_{\alpha}$ [Dorž-ijg]$_{\beta}$ ger-t-*ee*$_{\alpha/*\beta}$
私は ドルジ-ACC 家-D/L-REF
xürg-e-v.
送り届ける-EP-PST

(26') [Minij morj]$_{\alpha}$ morj-toj-g-*oo*$_{\alpha}$ xamt
私の 馬:N 馬-CMT-EP-REF 一緒に
yav-žee.
行く-PPST

REF は照応語であり、(7)により同一文中の主語によって束縛されなければならないのだから、(24')に見るように主語自体に付加することはできない。また、同一文中の他の格形 NP に接続する場合も、(25')、(26')に見るように、同一指示関係を結ぶのは常に主語とである。

Chomsky (1981)の GB (Government-Binding、統率‐束縛) 理論によると、PROC のような代名詞は、次のような統語上の制約下にある。

(27) 代名詞にかかる束縛原理：
代名詞は、その統率範疇内で自由でなければならない。

言い換えるなら、PROC は REF と異なり、同一文中/同一節中の主語に束縛されず、それ以外の NP と同一文中/同一節中で、あるいは言語内外の文脈の中で同一指示関係を築くことができるのである。

本節では、目的語節を含む文に現れるゼロ形主語 ***e*** の中に、PROC と同様に、代名詞として機能するタイプがある事実を明らかにしていく。

代名詞的なゼロ形主語の存在を示す第 1 の証拠は、談話における主語トピックの連鎖である。

(28) [Oyuutan bololtoj arv-aad zaluu xoyor
学生:∅ ～風の 10-程の 若い 2 人
oxin]$_{\alpha}$ ir-ž zogs-o-v.
娘:N 来る-ICC 立ち止まる-EP-PST
e$_{\alpha}$ $_{\mathrm{OC}}$[[Dergüül]$_{\beta}$ ongoj-x-iyg
店:N 開く-NPS-ACC
neleed xülee-lee.
かなりの間 待つ-RPST
(生徒風の 10 歳程の若い 2 人の娘が来て、立ち止まりました。<その 2 人は>店が開くのをかなりの間待ちました。) <L: 156>

(29) [Dulmaa]$_{\alpha}$ manaj angj-ijn bagš-taj
ドルマー:N 私たち:G クラス-G 先生-CMT
uulz-žee. ***e***$_{\alpha}$ [Minij ir-sn-ijg]
会う-PPST 私:G 来る-PF-ACC
xel-sen-güj.
言う-PF-NEG
(ドルマーは私のクラスの先生と会いました。<ドルマーは>私の来たことを言いませんでした。)

(28)、(29)の各ゼロ形主語は、目的語節の主語と同一指示関係にない。目的語主語は、(28)では主格形 NP の delgüür であり、(29)では属格形 NP の minij である。各文のゼロ形主語は、先行文の主語と同一指示的であり、Givón (1983) の述べるように、文境界をまたいでトピックの連鎖を形成している。

第 2 の証拠は、主節主語と非同一指示的なゼロ形主語が束縛される位置に現れる場合である。

(30) A: [Nom-iyn 3-r delgüür činj]$_{\alpha}$ xaa
本-G 第 3 の 店:N 2PROC どこに
baj-dag yum ve?
ある-HBT ASR Q
(第 3 書店はどこにあるのですか。)
B: [Bi]$_{\beta}$ $_{OC}$[$\boldsymbol{e}_{\alpha/*\beta}$ xaa baj-dg-ij
私:N どこに ある-HBT-ACC
nj$_{\alpha}$] med-e-x-güj yum.
3PROC 知る-EP-NPS-NEG ASR
(私は<第 3 書店が>どこにあるのか知らないのです。) <L: 160>

書店の所在を尋ねる(30A)に対し、(30B)は否定的な応答をしている。この目的語節のゼロ形主語は、主節主語 bi に束縛される位置にあるにもかかわらず、それとは同一指示的でないため、先行文の主語を先行詞とし、束縛から免れている。すなわち、主節主語と目的語節ゼロ形主語が非同一指示的である場合、たとえゼロ形主語が束縛される位置にあっても、(27)により束縛から自由であり、主節主語以外の NP を指示対象として指定するのである。このタイプのゼロ形主語は明らかに前節で採り上げたゼロ形主語 $\boldsymbol{e}_{ANA}$ とは異なる。

第 3 の証拠は、節境界を越えての同一指示現象である。

(31) $_{OC}$[$\boldsymbol{e}_{\alpha}$ 1-r sar-iyn 25-naas 2-r sar-iyn
第 1 の 月-G -ABL 第 2 の 月-G
10 xürtel nutag-t-*aa*$_{\alpha}$ oč-i-ž
～まで 故郷-D/L-REF 行く-EP-ICC
amr-a-x-iyg] $\boldsymbol{e}_{\beta}$ [oyuutan Bat-a-d]$_{\alpha}$
休む-EP-NPS-ACC 学生:∅ バト-EP-D/L
zövšöör-*sügej*$_{\beta}$.
許可する-OPT
(1 月 25 日から 2 月 10 日まで故郷に行って休暇をとることを、学生のバトに許可しよう。)

(31)は目的語節をトピック化した文である。この節内のゼロ形主語は主節の与位格形 NP と同一指示的であるが、この NP に束縛される位置にはない。したがって、(27)により代名詞とみなすことができる。一方、主節のゼロ形主語は末尾の動詞に 1 人称勧奨形接尾辞が付加しているので、1 人称代名詞 bi であると解釈できる。

主節主語に統率される位置に目的語がある場合でも、(32)のような事実が観察される。

(32) [Bi]$_{\alpha}$ [čamaas]$_{\beta}$ $_{OC}$[$\boldsymbol{e}^{*}_{\alpha/\beta}$ ingež
私:N 君:ABL こんな風に
ontssajn sur-a-x-iyg *činj*$_{\beta}$]
とてもよく 勉強する-EP-NPS-ACC 2PROC
xüs-sen yum.
願う-PF ASR
(私はおまえに、こんな風に一生懸命に勉強することを願ったんだよ。) <U:29>

目的語節のゼロ形主語は、主節主語ではなく奪格形 NP と同一指示関係にある。この NP はゼロ形主語を束縛することはできない。ゼロ形主語が 2 人称であることは、目的語節の対格形動名詞に後接する 2 人称 PROC との呼応現象によって保証される。

第 4 の証拠は、照応的なゼロ形主語と違って、同一節内の REF を束縛することができるという事実である。

(33) [Bi]$_{\alpha}$ [tand]$_{\beta}$ $_{OC}$[$\boldsymbol{e}_{\beta}$ čin setgel-ees
私:N あなた:D/L 誠実:∅ 心-ABL
itg-e-ž ünen-*ee*$_{*\alpha/\beta}$
こうする-EP-ICC 真実-REF
xel-e-x-ijg] xüs-ne.
言う-EP-NPS-ACC 願う-PRS
(私はあなたに、真心からこのように真実を語るよう願います。) <Bittigau 2003: 177>

(33)の目的語節中の REF は、主節主語に束縛される位置にあるにもかかわらず、そうなってはいない。その理由は、目的語節内に代名詞的なゼロ形主語が存在し、この主語に REF が束縛されるからである。このゼロ形主語は主節の 2 人称与位格形と同一指示関係にある。

主節主語が REF を束縛することのできないトピックの位置の目的語節に現れる REF も、代名詞的

なゼロ形主語によって束縛される。

(34) $_{OC}$[$\boldsymbol{e}_{\alpha}$ Toglolt-iyn-*xoo*$_{\alpha}$ xötölbör-ijg
演奏-G-REF　プログラム-ACC
olon　töröl züjl-eer　sonirxoltoj
たくさんの　種類　種類-INS　面白い
zoxjoo-ž　zarim　üzüülber-ijg
創作する-ICC　いくつかの　公演-ACC
uran sajxn-iy arg-aar　tajlbarl-a-n
芸術-G　手法-INS　解説する-EP-ASS
čadrarlag　togl-o-ž
才能の優れた　演奏する-EP-ICC
baj-g-aa-g]　[üzegčid]$_{\beta}$　sajšaa-ž
COP-EP-IMP　観客たち:N　賞賛する-ICC
baj-na.
COP-PRS
(<彼らの>演奏のプログラムは、面白く創作していて、いくつかの公演を芸術的な手法で解説し、優れた演奏をしているのを、観客たちは賞賛しています。) <Ünen 1988.4.14.>

(34)の目的語節内の REF は、主節主語 üzegčid によって束縛を受けることはない。REF は主節主語より統語上高い位置を占めていて、その統率範疇の外にあるからである。この REF は照応語なので当然束縛されなければならないが、その束縛要素は同じ目的語節中の主語の位置を占めるゼロ形代名詞ということになる。ゼロ形代名詞の先行詞は先行文脈から容易に検索できる。

以上から、目的語節のゼロ形主語には、次のような統語上のステイタスが備わっていると考えられる。

(35) 主節主語と目的語節主語が同一指示関係にない場合、目的語節主語の位置に現れるゼロ形主語は、束縛から自由な代名詞(pronoun)である：$\boldsymbol{e}_{PRO}$。

2.3　まとめ

目的語節に現れるゼロ形主語には照応語 $\boldsymbol{e}_{ANA}$ と代名詞 $\boldsymbol{e}_{PRO}$ の2つのタイプがあることがわかった。両者は統語上相補分布をなす。照応語の出現する環境は、主節主語と目的語節主語が同一指示関係にあり、かつ[主節主語]+[目的語節]+[主節述語]の語順に限る。目的語節がトピック化してその主語が主節主語より統語的に高い位置を占める場合、言い換えるなら、主節主語に束縛される位置にない場合、$\boldsymbol{e}_{ANA}$ は認可されない。一方、$\boldsymbol{e}_{PRO}$ は、主節主語と目的語節主語が非同一指示的で、[主節主語]+[目的語節]+[主節述語]の語順でも、[目的語節]+[主節主語]+[主節述語]の語順でも自由に現れることが可能である。

3　主語の格形と統語的環境の相関について

主節主語と目的語節主語が非同一指示的関係で顕在化する場合、主節主語は常に主格形であるが、目的語節主語は、属格形、対格形、主格形と 3 つの異なる格形をとる。本節では、格形とそれが現れる統語的環境との関係について考察したい。

3.1　属格形の主語

[主節主語] + [目的語節] + [主節述語]の基本語順で目的語節主語が属格形をとる例は、他の格形に較べて数が多い。最初に、通常の属格形と比較してみよう。

(36) Bi　[taniy　üg-ijg]　sons-son.
私:N　あなた:G　言葉-ACC　聞く-PF
(私はあなたの言葉を聞きました。)

(37) Bi　[taniy　xel-sn-ijg]　sons-son.
私:N　あなた:G　言う-PF-ACC　聞く-PF
(私はあなたの言ったことを聞きました。)

(36)は属格形 2 人称代名詞が名詞 üg を修飾する文である。(37)は同じ属格形 2 人称代名詞が完了形動名詞 xel-s(e)n を修飾している。(36)と(37)の属格形 NP はどちらも対格形名詞に前置し、同じ統語構造を有し、同じ作用域を持っている。唯一の違いは、(37)の属格形 NP が目的語節の内部にあり、動名詞との間に[主語] + [述語]の節構造を結んでいる点だけである。

次に、主節主語が顕在化していないものの、主節動詞の形から特定できる例を見よう。

(38) [[$\boldsymbol{e}_{PRO}$]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[Minij]$_{\beta}$ xel-e-x-ijg]
私:G　言う-EP-NPS-ACC
sons-o-ž　*baj*$_{\alpha}$!
聞く-EP-ICC　COP:IMP
(私の言うことをお聞きなさい。) <K&Ts: 391>

(38)の主節主語は代名詞的なゼロ形主語である

が、主節動詞が 2 人称命令形であるため 2 人称代名詞と特定できる。この特定化は文末から文頭に向かってなされるのであるから、その間に介在する目的語節は主節動詞の作用域内に収まっていることになる。

さらに、属格形主語に付く REF の例を観察しよう。

(39) [Bat]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[bagš-ijn-*xaa*$_{\alpha}$]$_{\beta}$ ir-sn-ijg]
バト:N 先生-G-REF 来る-PF-ACC
med-sen-güj.
知る-PF-NEG
(バトは自分の先生の来たことを知りませんでした。)

(39)の目的語節内の属格形主語に付加している REF が主節主語に束縛されていることから、目的語節は主節に従属していると理解される。この属格形主語は従属しながらも、(40)に見るように、同一節中の REF を束縛する主語としてのステイタスを保持している。

(40) [Bagš]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[taniy]$_{\beta}$ šalgalt-*aa*$_{*\alpha/\beta}$ sajn
先生:N あなた:G 試験-REF よく
ög-sn-ijg] nadad yarj-san.
受ける-PF-ACC 私:D/L 話す-PF
(先生は、あなたが試験のよくできたことを私に話しました。)

通常の対格形 NP のトピック化と目的語節のトピック化を較べてみよう。

(41) $_{NP}$[Ene suragč-ijn nom-iyg] bi unš-san.
この 学生-G 本-ACC 私:N 読む-PF
(この学生の本を私は読みました。)
(42) $_{OC}$[Ene suragč-ijn unš-i-ž
この 学生-G 読む-EP-ICC
baj-g-aa-g] bi sons-son.
COP-EP-IMPF-ACC 私:N 聞く-PF
(この学生の読んでいるのを私は聞きました。)

(41)は直接目的語がトピックとして文頭に移動した例である。これと全く並行的に、(42)のように属格形主語を含む目的語節も 1 つの構成素として文頭に移動する。

トピックの位置で属格形主語は、(43)に見るように、目的語節内の REF を束縛できるが、後続の主節主語を束縛することはできない。主節主語を修飾するには、代名詞的な 3 人称 PROC の nj を用いなけらばならない。

(43) $_{OC}$[[Dulmaa-g-ijn]$_{\alpha}$ tüüx-ijn šalgalt-*aa*$_{\alpha/*\beta}$
ドルマー-EP-G 歴史-G 試験-REF
namar ög-ö-x-ijg] [bagš]$_{\beta}$ *nj*$_{\alpha}$ /
秋:∅ 受験する-EP-NPS-ACC 先生:N 3PROC
*[bagš-*aa*$_{\alpha}$] zövšöör-sön ge-ne.
先生-REF 同意する-PF 言う-PRS
(ドルマーが歴史の試験を秋に受けることに、彼女＝ドルマーの先生は同意したそうです。)

これは、目的語節が内部では[主語] + [述語]の節としての構造を持ちながら、文全体では主節述語動詞に下位範疇化された補語的な役割を担っているからだと考えられる。

3.2 対格形の主語

属格形に較べて数は少ないが、目的語節の主語として機能する例が存在する。

(44) Či $_{OC}$[argat šar üneg-ijg
おまえ:N 悪賢い 黄色い キツネ-ACC
üügeer gar-a-x-iyg] üz-e-v
この辺りに 出る-EP-NPS-ACC 見る-EP-PST
üü?
Q
(おまえは、悪賢い黄ギツネがこの辺りに出たのを見ましたか。) <U: 67>
(45) Dorž öčigdör $_{OC}$[namajg xöl bömbög
ドルジ:N 昨日 私:ACC サッカー:∅
togl-o-ž baj-g-aa-g]
～する-EP-ICC COP‐EP‐IMPF‐ACC
xar-a-v.
見る-EP-PST
(ドルジは、私がサッカーをしているのを見ました。)

目的語節の動詞は、(44)では自動詞、(45)では他動詞であるが、どちらも対格形の主語が現れている。

対格形 NP が目的語節の主語として機能する証拠として、属格形 NP 同様、同じ節内の REF を束縛する事実を指摘することができる。((15)再録)

(46) Yör nj [ene undaa-g-ijn toglolt]$_{\alpha}$
一般に この 次の-EP-G 演奏:N
$_{OC}$[[Serčmaa-g]$_{\beta}$ Mongol-d-*oo*$_{*\alpha/\beta}$
セルチマー-ACC モンゴル-D/L-REF
xülee-n zövšöör-ö-gd-sön
受け入れる-ASS 同意する-EP-PSV-PF
dučin bol-sn-iyg] xaruul-laa.
歌手:∅ なる-PF-ACC 示す-RPST
(一般に、今度のコンサートは、セルチマーがモンゴルで受け入れられた歌手になったことを示しました。) <Oyuutan 2003.3.10.>

(46)の目的語節の REF は、主節主語の統率範疇内にありながら、それによっては束縛されない。むしろ、(17)の制約に従い、同じ節内の対格形 NP に束縛されている。

これに対して、目的語節が主節に従属することを示す証拠がある。属格形主語と同様に、対格形主語自体に REF が付加する場合、その先行詞は主節主語である。

(47) [Bid]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[material-*aa*$_{\alpha}$ bürdüül-ž
私たち:N 資材-REF 供給する-ICC
büx asuudal nj
すべての 問題:N 3PROC
šijd-e-gd-čix-sen [olon
解決する-EP-PSV-CMP-PF たくさんの
xün möng-*öö*$_{\alpha}$]]$_{\beta}$ ir-e-x-ijg]
人:∅ 金-REF 来る-EP-NPS-ACC
xülee-ž baj-na.[10]
待つ-ICC COP-PRS
(私たちは、資材を供給してすべての問題がすっかり解決されてしまった多くの人とお金が来るのを待っています。)
<ÖS 2000.3.10.>

(47)では、対格形主語を修飾する句内部を含め、目的語節の REF はすべて主節主語 bid に束縛されている。

目的語節がトピック化を受けて文頭に現れる事例もある。その際、目的語節内の REF は(48)に見るように対格形主語により束縛される。

(48) $_{OC}$[[Čamajg]$_{\alpha}$ morj-*oo*$_{\alpha}$ avčr-a-x-iyg]
君:ACC 馬-REF 持って来る-EP-NPS-
[bid]$_{\beta}$ med-sen-güj.
-ACC 私たち:N 知る-PF-NEG
(君が馬を持って来ることを、私たちは知りませんでした。) <Yaxontoba 1997: 121>

トピックの位置で対格形主語が 3 人称の PROC と呼応する例も見つけることができる。

(49) Tegeed č $_{OC}$[[tüünijg]$_{\alpha}$ üje üje
それで も 彼:ACC 関節:∅ 関節:∅
čanga inee-deg baj-sn-iyg *nj*$_{\alpha}$]
大きく 笑う-HBT COP-PF-ACC 3PROC
[tsereg-üü]$_{\beta}$ xel-ž baj-g-aa-güj.
兵士-PL:N 言う-ICC COP-EP-IMPF-NEG
(それでも、彼があごがはずれるほど大声で笑っていたことを、兵士たちは話していませんでした。) <ÖS 2001. 3. 27.>

PROC は代名詞とみなされるが、3.1 節で考察した属格形主語の場合には、この位置に現れる例が見当たらない。nj は対格形主語 tüünijg と同一指示的でありながら、それに束縛されることはない。この事実は、対格形主語を認可する目的語節が、属格形に較べ、主節への統合の度合いが低いことを示していると考えられる。

3.3 主格形の主語

目的語節に主格形主語の出現する例も、数は少ないが観察される。

(50) [Bi]$_{\alpha}$ $_{OC}$[[“Golomt” bank-niy manežment]$_{\beta}$
私:N ゴロムト 銀行-G 経営:N
maš sajn bol-o-x-iyg] med-lee.
大変 よく なる-EP-NPS-ACC 知る-RPST
(私は、『ゴロムト』銀行の経営が非常によくなっていることを知りました。)
<ÖS 2000. 8. 29.>

(50)の主節主語、目的語主語とも主格形である。

トピックの位置に目的語節の立つ場合にも、主格形主語は用いられる。

(51) $_{OC}$[Övčtön-d [suvilagč]$_{\alpha}$ tarjaa xij-ž
患者-D/L 看護師:N 注射:∅ する-ICC
baj-x-iyg] [emč]$_{\beta}$ xar-ž baj-laa.
COP-NPS-ACC 医者:N 見る-ICC COP-RPST

(患者に看護師が注射しているのを、医者は見ていました。) <ÖS 2001. 1. 18. >

(51)の目的語節は他動詞構文で、主格形主語の他に与位格形間接目的語とゼロ格形直接目的語がある。

主格形主語が人称代名詞の例も存在する。

(52) $_{OC}$[[Ter]$_{\alpha}$ tsaaguur-*aa*$_{\alpha}$ yuu bod-o-ž
彼:N ひそかに-REF 何:∅ 考える-EP-ICC
baj-g-aa-g] [bi]$_{\beta}$ med-e-x-güj.
COP-EP-IMPF-ACC 私:N 知る-EP-NPS-NEG
(彼がひそかに何を考えているのかを、私は知りません。) <K&Ts: 225>

(52)の目的語節主語は 3 人称代名詞であるが、これが同じ節内の REF を束縛している。

他動詞の目的語が対格形である場合には、(53)に見るように、目的語節主語は主格形をとる。

(53) $_{OC}$[[Üjldexijn tijn yalgal-d baj-g-aa
具格 形-D/L COP-EP-IMPF
zarim üg] üil-ijn orš-i-x
いくつかの 語:N 行為-G 存在する-EP-NPS
orn-iyg zaa-x-aas gadna bol-o-x
場所-ACC 示す-NPS-ABL 以外に 起こる-EP-
orn-iyg zaa-gd-ijg] bid
NPS 場所-ACC 示す-PSV-ACC 私たち:N
üz-sen.
見る-PF
(具格形をとるいくつかの語が、行為の存在する場所を示す他に、<行為の>生じる場所を示すことを、私たちは見ました。)

これは、同一節内での対格形主語と対格形目的語という同じ格形の NP の共起が許されないというモンゴル語の統語上の制約によるものである。ただし、目的語節を統括する対格形は、この制約を免れているという事実は注目に値する。

4 結論

目的語節の主語の形と統語構造及び同一指示性との関係は、次のようにまとめることができる。

表 1

	同一指示		非同一指示	
	定型	トピック型	定型	トピック型
e_{ANA}	OK	X	X	X
e_{PRO}	OK	OK	OK	OK
属格形	X	X	OK	OK
対格形	X	X	OK	OK
主格形	X	X	OK	OK

表 1 から代名詞的ゼロ形主語 e_{PRO} は、同一指示的な場合でも非同一指示的な場合でも、また定型においてもトピック型においても、自由に出現できることがわかる。この e_{PRO} の自由度は、束縛という統語構造上の優位関係から自由であることに加え、英語の顕在的な代名詞、たとえば、he、she、it、they の代わりに非顕在的なゼロ形代名詞でつないでいくモンゴル語に顕著に見られる結束性(cohesion)の方略によるものと考えられる。

一方、同じゼロ形でも照応的な e_{ANA} は制限が厳しく、同一指示的な定型の場合にしか出現を許されない。

属格形、対格形、主格形の主語は非同一指示的な場合に限り、定型にもトピック型にも現れることができる。それは、目的語節において主節主語から独立した主語としてのステイタスを持っているからである。

3 つの格形の選択基準が何であるのかはよくわからない。REF や PROC の分布、データ数の比率から言えることは、属格形主語が対格形と主格形に較べて、主節への結合度が高いのではないかということである。

(54) 格形に見る目的語節主語の主節への結合度
←more integrated less integrated→
e_{ANA} > e_{PRO} > Genitive > Accusative > Nominative

(54)の階層性に対する評価は、副動詞節、直接話法・間接話法の引用節、bolovč などの接続詞に導かれた節の主語の格形やテンス・アスペクト・モダリティのいわゆる TAM 要素との関係から検証していく必要がある。

さらに、今後取り組む必要のある課題として、どのようなタイプの動詞が目的語節を要求するのか、たとえば、事態なのか命題内容なのかといった意味レベルに関わる問題が挙げられる。この目的語節の意味的特徴については、次の論考に譲ることとしたい。

謝辞

本論文を完成させるにあたって2名の査読者より貴重なご指摘とご意見をいただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。なお、誤り、及び不適切な点はすべて著者が負うものである。

注

(1) グロスの省略記号の対応は次の通りである。
ABL: Ablative(奪格形), ACC: Accusative(対格形), ANA: Anaphor(照応語), ASR: Assertive(断定辞), ASS: Associative(融合形), COP: Copula(繋辞), CMT: Comitative(共同格形), CMP: Completive(完結形), CST: Causative(使役形), D/L: Dative-Locative(与位格形), EP: Epenthesis(挿入要素), G: Genitive(属格形), HBT: Habitative(習慣形), ICC: Imperfective Coordinative Converbal(未完了等位副動詞形), IMP: Imperative(命令形), IMPF: Imperfective(未完了形), INS: Instrumental(具格形), N: Nominative(主格形), NEG: Negative(否定形),NP: Noun Phrase(名詞句), NPS: Nonpast(非過去形), OC: Object Clause(目的語節), OPT: Optative(勧奨形), PCC: Perfective Coordinative Converbal(完了等位副動詞形), PF: Perfective(完了形), PL: Plural(複数形), PPST: Perfective Past(完了過去形), PRO: Pronoun(代名詞), PROC: Personal Possessive Proclitic(人称所有後接語), PRS: Present(現在形), PST: Past(過去形), PSV: Passive(受動形), Q: Question(疑問辞), REF: Reflexive-Possessive(再帰所有形), RPST: Recent Past(近過去形), VOC: Vocative(呼格形), ∅ : Zero Case(ゼロ格形)

(2) (5)の対格形動名詞句も、(3)のように、対格形接尾辞を除いて単文として用いることができる。
i. Ter öröön-d radio duugar-č baj-g-aa.
(その部屋でラジオが鳴っています。)

(3) モンゴル語には語幹母音と接尾辞母音が音韻上一致する母音調和(Vowel Harmony)がある。したがって、完了形には -san/-sen/-son/-sön 、未完了形には -aa/-ee/-oo/-öö、習慣形には-dag/-deg/-dog/-dög の 4 つの交替形が存在するが、記述の便宜上、各交替形の最初の母音aを含む形のみを代表形として挙げることにする。

(4) 「束縛」(Binding)は Chomsky (1981)以来の統率束縛理論(Government-Binding Theory)で展開されてきた統語構造に関わる概念であり、次のように定義される。
i. 「束縛」の定義：
ある句構造において A が B を束縛するのは、
a. A と B が同じ指標をもち、
b. A が B を構成素統御(Constituent-command)する場合である。
「構成素統御」は構成素同士の統語構造的上下関係を捉える概念であり、Reinhart (1983)などによると、次のように定義される。
ii. 「構成素統御」の定義：
統語構造上の節点 A が節点 B を構成素統御するのは、次の 2 つの条件を満たす場合である。
a. A は B を支配しない。
b. A を支配する最初の枝分かれ節点が B を支配する。

(5) “*”は非文法的であることを示す。

(6) 副動詞節でも同様の事実が観察できる。
i. [Bagš]$_\alpha$ $_{OC}$[e_α or-ž ir-eed
先生:N 入る-ICC 来る-PCC
suu-nguut] xičeel-ee_α
すわる-IMMEDIATE 授業-REF
exl-e-v.
始める-EP-PST
(先生は、入って来て腰をおろすとすぐに、授業を始めました。) <K&Ts: 170>

(7) 対格形接尾辞に REF が付加する場合、しばしば対格形接尾辞は落ちる： or-sn-iyg-oo → or-sn-oo; nom-iyg-oo → nom-oo。

(8) 完了過去形接尾辞-žee/-čee は-ž/-č のように省略形で用いられることがある。

(9) ゼロ形主語が主節主語と同一指示的でない場合には適切な文である。

(10) xün と möngö のように等位構造で名詞が結ばれる時には、接尾辞は右端の名詞にのみ付加する：*xün-ee möng-öö。

引用文献表

K&Ts: Kullmann and D. Tsrenpil (1996), L: Luvsanžav, Čoj (ed.) (1976), Oyuutan <Online Newspaper>, ÖS: Ödrijn Sonin <Online Newspaper>, S&B: Sanders, A.J.K. and J. Bat-Ireedüj. (1999), U: Šarav, S. et al. (1978), Ü: Ünen <Newspaper>.

参照文献

Bittigau, Karl Rudolf. (2003) *Mongolische Grammatik: Entwurf einer Funktionen Grammatik (FG) des Modernen, Literarischen Chalchamongolischen*. Harrassowitz Verlag: Wiesbaden.

Chomsky, Noam. (1981) *Lectures on Government and Binding*. Foris: Dordrecht.

Givón, Talmy (ed.) (1983) *Topic Continuity in Discourse: A Quantified Text-Based Study*. J. Benjamins: Amsterdam.

橋本邦彦. (1999) 「直接目的語の指示性」室蘭工業大学紀要 49: 159-173.

_____. (2000a) 「現代モンゴル語副動詞構文における再帰所有接尾辞について」東アジア言語研究 4: 1-14.

_____. (2000b) 「副動詞構文の対格形主語」室蘭工業大学紀要 50: 157-166.

_____. (2006a) 「モンゴル語 3 人称後接語のトピック表示/焦点表示」認知科学研究 4: 7-23.

_____. (2006b) 「モンゴル語 3 人称所有後接語の複数の機能について」『実験音声学と一般言語学』東京堂出版、400-411.

Kullmann, Rita, and D. Tserenpil. (1996) *Mongolian Grammar*. Jensco Ltd.: Hong Kong.

Luvsanžav, Čoj (ed.) (1976) *Mongol Xel Surax Bičig*. BNMAU Sajd Nariyn Zövlölijn Ulsiyn Deed, Tusgaj Dund, Texnik Mergežlijn Bolovsroliyn Xorooniy Xevlel: Ulaanbaatar.

Reinhart, Tanya. (1983) *Anaphora and Semantic Interpretation*. University of Chicago Press: Chicago.

Sanders, Alan J.K. and Jantsangiin Bat-Ireedüj. (1999) *Colloquial Mongolian: The Complete Course for Beginners*. Routledge: London and New York.

塩谷茂樹・E.プレブジャブ. (2001) 初級モンゴル語. 大学書林: 東京.

Šarav, S., Č. Luvsandendev, D. Bazar and Ya. Gončig. (1978) *Unšix Bičig*. BNMAU Ardiyn Bolovsroliyn Yaamniy Xevlel: Ulaanbaatar.

Yaxontoba, N. S. (1997) “Mongoljskie Yaziyki,” in *Yaziyki Mira: Mongoljskie Yaziyki, Tungusko-Manjčžurskie Yaziyki, Yaponskij Yaziyk, Korejskij Yaziyk.*, 10-18. <<Indrik>>: Moskva.